

■ 基準病床数算定式に基づく試算 (H30.9.19現在)

参考資料4

※病床利用率は、H29病床機能報告を使用。

(床)

医療圏	第7次計画 基準病床数 (H31.4.1) (基準病床数算定 式に基づく試算)	<加算1> 療養病床入 院患者(医 療区分1)の 40% ※病床数換 算	第7次計画 基準病床数 (試算) (H31.4.1)	既存病床数 (H30.4.1)	第7次計画 基準病床数 (当初) (H30.4.1)	既存病床数 (H30.4.1) - 第7次計画 (H30.4.1) 基準病床数	第7次計画 基準病床数 (当初)(H30.4.1) - 第7次計画 基準病床数 (試算)(H31.4.1)	(参考) 2025必要 病床数
	2018.1.1人口 ①		③=①+②					
横浜計	23,627		23,627	22,661	23,516	△ 855	△ 111	30,155
川崎北部	3,771	※ 183	3,954	4,362	3,662	700	△ 292	5,103
横須賀・ 三浦	5,442		5,442	5,285	5,307	△ 22	△ 135	6,130

※川崎北部は、第7次基準病床数の策定時、療養病床入院患者(医療区分1)の40%を加算したため、今回の試算においても同様に183床を加算

<国告示病床利用率>

療養	一般
0.90	0.76

<病床機能報告 病床利用率>

	H29 病床利用率		H29採用 病床利用率		H28 病床利用率		H28採用 病床利用率		H29-H28 病床利用率		H29-H28 採用病床利用率	
	療養	一般	療養	一般	療養	一般	療養	一般	療養	一般	療養	一般
横浜	0.92	0.81	0.92	0.81	/	/	/	/	/	/	/	/
川崎北部	0.93	0.74	0.93	0.76	0.93	0.80	0.93	0.80	0.00	▲ 0.06	0.00	▲ 0.04
横須賀回三浦	0.83	0.79	0.90	0.79	0.81	0.80	0.90	0.80	0.02	▲ 0.01	0.00	▲ 0.01

※出典：平成29年度病床機能報告集計結果

⇒H29病床利用率=年間在棟延べ患者数×100/稼働病床数(平成29年7月1日時点)×365日

(参考) 人口による影響について

昨年度と同じ病床利用率を使用して試算した場合(人口の変化のみで試算)

医療圏	第7次計画 基準病床数(H31.4.1) (基準病床数算定 式に基づく試算)	<加算1> 療養病床入 院患者(医 療区分1)の40% ※病床数換 算	第7次計画基 準病床数 (H31.4.1)	既存病床数 (H30.4.1)	第7次計画基 準病床数 (H30.4.1)	既存病床数 (H30.4.1) - 第7次計画 (H30.4.1)基準病 床数	第7次基準病床 数(H30.4.1) - 第 7次基準病床数 (H31.4.1)
	2018.1.1人口 ①		③=①+②				
横浜	24,191		24,191	22,661	23,516	△ 855	△ 675
川崎北部	3,620	※ 183	3,803	4,362	3,662	700	△ 141
横須賀・ 三浦	5,398		5,398	5,285	5,307	△ 22	△ 91

○横浜市は、老年人口の増加が大きい(参考資料5参照)ため、患者数が増えて基準病床数が大きく増加するが、実際は病床利用率が上昇したため、約560床ほど緩和されている。

○川崎北部は、生産年齢人口と老年人口がともに増加するため、患者数が増加して、基準病床数が増加するが、一般病床の病床利用率が低下したため、基準病床数がより増加している。

○横須賀・三浦は、老年人口が増加するため、患者数が増加し、基準病床数が増加するが、一般病床の病床利用率が低下するため、基準病床数がより増加している。